

「2030デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会

資料 2-4
情報委員会（第40回）
令和 7 年 1 月 20 日

設置目的・審議事項等

科学技術・学術審議会（第 1 1 期）の情報委員会下に設置された「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会」で令和 5 年 1 月に取りまとめられた審議のまとめにおいて、大学図書館は2030年度を目途に「デジタル・ライブラリー※1」を構築することが掲げられている。この「デジタル・ライブラリー」構想を実現していく過程で新たに生じる共通の課題や、学術情報流通を推進する際の課題等を整理・検討する場として「『2030デジタル・ライブラリー』推進に関する検討会」を令和 5 年 4 月に設置。

※ 1 コンテンツのデジタル化を経た結果として意識される、運営やサービス、職員の知識やスキルの変革などを内包する形で自身のDXを推進する大学図書館

委員（◎：主査 ○：主査代理）（50音順）

石 田 栄 美	九州大学 データ駆動イノベーション推進本部教授	西 岡 千 文	京都大学 情報環境機構データ運用支援基盤センター准教授
大 山 努	東京大学 附属図書館事務部長	○ 林 和 弘	文部科学省 科学技術・学術政策研究所データ解析政策研究室長
小 山 憲 司	中央大学 文学部教授	日 向 良 和	都留文科大学 学長補佐、共通教育センター長
杉 田 茂 樹	京都大学 附属図書館事務部長	松 原 茂 樹	東海国立大学機構 名古屋大学情報基盤センター教授
◎ 竹 内 比呂也	千葉大学 副学長（教育改革・学修支援）、附属図書館長、アカデミック・リンク・センター長、国際未来教育機関高等教育センター長、人文科学研究院教授		

審議の内容

- 「デジタル・ライブラリー」の実現に向けた当面の目標である「2030年の大学図書館の望ましい姿」を具体的に描き、その実現に向けて検討すべき課題を、（1）教育・研究支援機能、新たなサービス、（2）情報科学技術及び「場」としての大学図書館の効果的な活用、（3）今後の大学図書館の機能やサービスの実現に求められる人材、（4）大学図書館間の効果的な連携について、（5）審議のまとめ以降に明らかになった課題の 5 項目で整理
- 上記の 5 項目のうち、
 - （1）について、支援・サービスの基盤としての「コンテンツのデジタル化」と「オープンアクセス」
 - （2）について、「ライブラリー・スキーマ※2」に基づく機能の具体化
 - （3）について、求められる「スキル・育成」とそのための「制度」を優先的に取り組むべき領域とし、2030年を目途としてバックキャスト的に何に取り組み、段階的に何を実現していくべきかを示したロードマップを作成。

※ 2 様々な利用者に適した図書館のサービスをデザインするために必要な、自らの存在を規定する基本的な論理構造。これを具体化したものが、実際に存在する図書館とそこで提供されるサービスとなる。